



実務に役立つ色彩セミナー —道央Aブロック活動報告—

札幌支部 新海 直美

建物のプランニングに携わっていると、空間の色合いというのはよく出てくる問題のひとつです。

「明るい雰囲気になりたい」「ナチュラルな感じ」「赤い色を入れたい」…。要望の表現も様々ですし、こちらがお客様にお伝えする際に、色を言葉で表現するというのは結構難しいものです。

「もっとこうした方が、馴染むのに」「この組み合わせは合わないかも」という場合、どうやって表現すると、お客様により伝わりやすいのか…。私自身、伝え方に苦慮したことも多かったのですが、ならば、専門家に教えて頂くのが一番と、講師をお招きして色彩セミナーを開催しました。

平成24年6月16日、建築士会の会議室をお借りしてのセミナーでした。講師はカラーコーディネータの笹谷幸恵さん。



出席者14名でした

セミナーの内容としては、調和する色とはどのような色なのか、そこにはどんな法則があるのか、

というようなことを、布やパネルを使って、解説頂きました。



「緑」ひとつとっても様々

建物の性能が大切なのは、もちろんなのですが、最終的に表面に見えてくる部分というのは、満足度をUPする為に、とても重要な部分です。街並みに至っては色ひとつで景観が台無しにもなります。

建築士の試験などでも、明度・彩度・補色等々、色の勉強はしますが、もっと色が与える影響というものを重要視して、より具体的な手法が盛り込まれた方が良いのではないかと思います。

また、お客様に接する際に、自分に「似合う色」（パーソナルカラー）を身に付けていると印象が違うというお話もありました。

参加者に、女性が多かったこともあり、この辺りはとくに興味を持って頂けたようです（笑）

そんな様子を見ていると、お客様にも、似合う色、似合わない色というのがあるのですよ、ということから伝えてみると、興味を持って聞いて頂けるかもしれません。

楽しくて奥深い色の世界、専門職だけではなく、一般の多くの人にも知って欲しいと思いました。

歴建改修工事 現場見学会 二題

小樽支部 早川 陽子

●小樽駅リニューアル工事

（2月9日）

昭和9年に完成した小樽駅は、上野駅以北で最初のコンクリート造の近代駅。外観は左右対象の2階建、中央ホール吹き抜けの高窓からは朝から夕方まで陽が差し込みます。また先端の設備、素材であったEV（荷用）、浄化槽、ガラスブロック（床採光）などが設置されていました。

今回一番の見どころは、鉄筋コンクリートの「柱」に鉄道レールが埋め込まれていた！ことの発見。「鉄骨・鉄筋コンクリート造」の鉄骨は鉄道レールだった訳です。



JR北海道さん、伊藤組さんと「柱」を中心に

●日本銀行旧小樽支店

外壁等改修工事 （6月20日）

辰野金吾設計で知られるこの銀行は煉瓦造で外壁はモルタル塗り。内部の客溜と営業室の境に1本も柱がない大空間が魅力で、小屋組の軽量化に鉄骨を使っています。明治45年に完成し、建設費は本店、大阪に次ぐ3番目。国策において小樽が北の拠点であった事が伺えます。

今回の見どころは、建物の各部分を間近に観察できた事。小屋組鉄骨（八幡製作所製作）、コンクリートの屋根（無筋）、煉瓦層の壁（江別産？）、望楼の板金の技、軟石の窓飾りやフクロウの彫刻…等々。

どちらも当時の日本を代表する建物の設計思想と技術に触れることが出来た貴重な見学会でした。